



雄大な筑波山を背景をバックに、建築群はスケール感を小さくし、集落のように形成。



外玄関。奥は自転車置場の建具。



回廊が建築群をつなぐ。事務・地域交流ホール棟（左）と親子訓練棟（右）



建築群の西にあるグラウンド（多目的広場）からの光景



回廊が子ども達のグループケアユニット建築群をつなぐ。



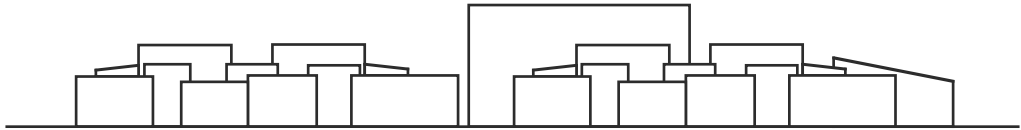
中庭夜景。グループケアユニットのダイニング上部から優しい光が溢れる。



シンボルツリーのある中庭を回廊が建築群を柔らかにつなぐ。

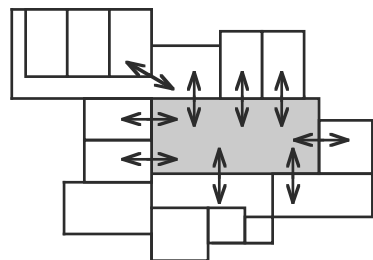
■集落のような建築群として

- ・小さな家（小舎制）の集合体であることを形態ではっきりと表現します。
- ・小さな家が自然なかたちで適度な距離を置いて、集まったかのような配置を目差します。
- ・周辺の住宅のスケールに合わせた建築群が、変化のある風景を作るようにします。



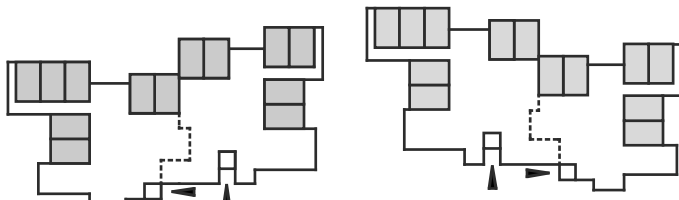
■ダイニングを生活の中心として

- ・ダイニングを家の中心に配置し、子供たちが集まって過ごす場所としてゆとりのある空間とすると同時に、ダイニングから子供たちに目が行き届くようにします。
- ・ダイニングにはハイサイドライトを設け、外部空間のように開放的な雰囲気作りをし、コンパクトな回りの空間と対比させ、多様で豊かな生活の場を作ります。



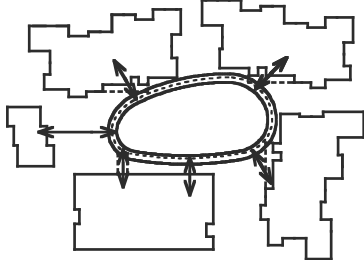
■自分の家として

- ・子供たちが「自分の家」としっかり認識できるように独立性を持たせます。
- ・「自分の家」は全室個室で、扉を開閉だけでプライバシーを十分に確保できます。
- ・ハイサイドライトから漏れる明かりは、温もりある「自分の家」を意識させます。



■みんなをゆったりとつなぐ大きな楕円回廊を歩いて

- ・分棟化されたユニットを柔らかく結びつける楕円回廊を設けます。
- ・楕円回廊は雨や強い陽射しを凌いだり、子供たちの遊び場として機能すると同時に建築群に一体感を与えてくれます。
- ・独立性が高いユニット群を形成していますが、隣家との交流を積極的に図ることを、外部の廊下として回廊が演出してくれます。



○事業主体：社会福祉法人 筑波会 ○児童定員：40人
○設計・監理（総括）：鹿島信哉＋佐藤文／K+Sアーキテクト 構造設計：長坂設計工学 設備設計：システムプランニングコーポレーション ○施工：成島建設 ○竣工：2014年1月
○所在地：茨城県つくば市 ○敷地面積：7402.54m² ○建築面積：1439.58m² ○延床面積：1611.62m² ○主体構造：木造 鉄骨造（回廊） ○規模：地上2階

設計・監理 鹿島信哉＋佐藤文 / K+S アーキテクト

社会福祉法人 筑波会
児童養護施設 筑波愛児園



2つのユニットが組み合わされた1つのグループケアユニット棟



子ども達の自分の家へのアプローチ歩道夜景。左は事務棟、奥が回廊



事務棟2階の地域交流ホール。木製格子の採用でホールの大空間を作る。



グループケアユニット棟。ハイサイドライトのある天井の高いダイニング。それを囲むリビング、個室、キッチン



グループケアユニット棟。キッチンからダイニングをのぞむ。



個室（全室）



玄関からダイニングをのぞむ。



ヤマボウシ（シンボルツリー）を囲んでの夜景。ハイサイド窓から柔らかな光が零れる



配置図・1階平面図 S1/400

■設計にあたって

筑波愛児園はつくば市の緑豊かな田園風景の中に建っています。40人の子供たちが自然に囲まれた中で、のびのびと生活する家です。建物は3つのグループケアユニット棟（2ユニットで1棟）・事務・地域交流・心理療法棟、親子訓練棟で構成されています。それぞれの棟は橋の回廊によって繋がっています。分棟ではあるものの囲まれた中庭を介して、各棟を見渡せ、子供たちの生活を見守れるように配置してあります。この建築群はいくつかの家や建物が集まってできた街（集落）をイメージして構成されています。ひとつのグループケアユニットは6・7人の子供たちが生活する家であり、ふたつのグループケアユニットが結合してひとつの棟を形成しています。ユニットの中心にあるダイニングは4周にハイサイドライトを設け、外部空間のように明るく開放的な空間としました。その壁にレッドシダーの下見板を張ることで、屋外的な雰囲気を作っています。ダイニングを子供の個室が取り囲むように配置し、より子供たちの様子が見守りやすいようになっています。夜はハイサイドライトから温かい光が漏れ、家に帰ってくる子供たちにとっても温かみのある風景になることを意図しました。

事務・地域交流・心理療法棟は1間モジュールによるシンプルな構成として、2階の地域交流ホールは水平力を負担するコアのうえに格子状に組んだ梁を掛けることで、木造ながら大きな空間を作りました。また外周に回したアルミの小庇（特注金型押出成形材）は、夏の陽射しを遮ってくれると同時に、建物の外壁に陰影を与えてくれます。

親子訓練棟は3つの家が連続したかたちとし、より家庭的でゆとりのある空間としました。それぞれの家の天井高さを変えることで、各空間に特徴を持たせました。エントランスゲートや駐輪場も建物と同一の外装材とし、施設全体として統一感を感じられるデザインとしました。

筑波愛児園で生活する子供たちは皆が、健康で無邪気な子供たちです。園内でも礼儀も正しく元気な会話を耳にすることができます。しかしながらその背景には諸々の家庭の問題があり、親子が別れて生活せざるを得ない事情があります。子供たちに何の罪もありません。本来あるべき姿である家庭と一緒に楽しく生活できるのが本来の姿だと思います。

これからの日本の未来を築いていくのはこの子供たちです。その子供たちが成長する大切な時期を過ごす環境を作る機会をいただいたのがこの計画です。子供たちがより一層元気に生活できる雰囲気を作りたいと素直に思いました。そして未来を担う子供たちが、感受性豊かに安心して生活できる雰囲気を作る模索がこの計画の始まりでした。豊かな光や風を感じつつ、いろんな居場所を作り、いろんな経験を積むことのできる環境で生活できることが、大人になった時も必ず貴重な体験になっていると思います。子供たちにとっての大切な「家」なのです。みんなで一緒に楽しく生活する「家」なのです。